

玉城中学校 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果概要

2018年4月16日に行われた全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ここでは、全国や三重県のデータと玉城中のデータを見比べて玉城中学校の生徒の状況について分析しました。この分析は三重県、全国と比較して、国語、数学、理科で問われる学力のどこが強みで、どこが弱みか、また、学習状況調査から見えてくるよりよい学習習慣について確認してみました。

1 教科に関する調査結果

(1) 実施した教科

- ① 国語 A (主として「知識(基礎・基本)」の習得状況) ・ 国語 B (主としてその知識を「活用する力」の定着状況)
- ② 数学 A (主として「知識(基礎・基本)」の習得状況) ・ 数学 B (主としてその知識を「活用する力」の定着状況)
- ③ 理 科 (主として「知識(基礎・基本)」の習得状況)

(2) 本校の結果の概略

本校の平均正答率は、多少の数値の差は見られるものの国語 A・B、数学 A・B、理科のすべてで三重県、全国平均と同等でした。



- ① 国語 A, B の平均正答率は、カテゴリー（学習指導要領の領域別、評価の観点別、問題形式別）別に見た比較についても、三重県、全国との有意差はありませんでした。

【国語 強み】

- 古典の文書と現代語訳とを対応させて内容を捉える。
- 質問の意図を捉える。
- 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する。
- 無解答率が低い。

【国語 A 弱み】

- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。
- 話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。
- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。
- 全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す。

国語 A, B の結果を通して、今後の指導では、生徒個々の持つ語彙力を適切に使う訓練（経験）を積み重ねられるような、実際の時と場の設定を学校内外の活動で意識的に設定し、気の合う仲間とだけでなく、学校の外の地域社会や住民と、相手を意識したコミュニケーションの経験を積めるようにすることが必要であると思われます。

- ② 数学 A, B では、いずれのカテゴリーにおいても三重県、全国との有意差はありませんでした。

【数学 強み】

- 四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解している。
- 証明の必要性和意味を理解している。
- 一次関数の意味を理解している。
- 与えられた資料から中央値を求める事ができる。
- 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。
- 記録の範囲を求めることができる。
- 度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることができる。
- 不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる。
- 無解答率が低い。

【数学 弱み】

- 数量の大小関係を不等式に表すことができる。
- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

数学 A では、数学で使う中央値や確率で使う言葉の意味理解はできているものの、計算の順次処理として行う問題については、方法だけでなくその意味も含めて、理解させていく必要があると思われます。

数学 B での弱みの要因としては、事象を単純化して整理する数学的な方法の良さや理由が理解できていない生徒の割合が多いことが考えられます。今後は数学的な見方や考え方の良さをしっかり伝えていく必要があります。

また、数学でも無解答率が非常に少なく、最後まで取り組んだ姿勢がみられたことは評価できることです。

数学 A, B を通して今後の指導では、直感だけではなく、現象や事象の中にある意味を読み取ることや、じっくりと自分の考えを整理して説明させていくような指導を繰り返すことで、世の中の事象を理解し、今後の予想を立てるなどの実のある力をつける必要があります。また、説明には豊かな語彙力が必要であり、正しい伝え方を単純化された数学の言葉で表現することで、論理的な思考力の土台づくりをしていきたいと思えます。

- ③ 理科では、全国、三重県と比較して「関心・意欲・態度」の観点で上位の有意差がありました。

【理科 強み】

- 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特長に関する知識を活用できる。
- 1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。
- 電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気図記号の知識を身につけている。

- 実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる。
- 探求の過程を振り返り、新たな疑問を持ち問題を見いだして探求を深めようとしている。
- アルミニウムはくは水の温度変化に関係していることについて新たな問題を見いだすことができる。

【理科 弱み】

- 神経系の働きについての知識を身につけている。

理科の活用問題では、説明する問題の中の2間で上位の有意差があり、きちんと記述できている生徒の割合が高かったです。また、全体的に正答率が低い傾向にあったのは、調べたいデータを得るための適切な実験方法を述べる化学の燃焼実験に関するもので条件が複雑になると理解しにくく、全国でも正答率が2割にも及んでいません。今後の指導では強みである実験や観察に関する知識に関してきちんと取り組むことで成果が上げられているため、引き続き今までの指導を続けていきたいと思えます。逆に「知識」を中心に問われる設問や割合や、濃度などの少し面倒と思われる計算問題等については、数学同様、諦めずじっくり取り組む姿勢を推奨して指導していく必要があると思えます。

2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果

- (1) 質問紙の主な内容 ① 普段の生活習慣に関する質問 ② 学習習慣や地域とのつながりについての質問 ③ 教科学習(数学・理科)や学校生活・授業に関しての質問 等

(2) 本校の結果から見た強み、弱み

ここでは、調査結果から(1)の①、②、③を中心に本校の強み、弱みを考察します。

- <強み> ○自尊感情ができている。 ○家庭学習で教科書を使いながら学習している。
○地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。
○数学のノートをきちんと書いている。 ○理科が好きである。
○最後まで問題を解く努力をしている。 等

- <弱み> ●地域行事への参加が少ない。 ●学習時間が少ない。 ●読書時間が少ない。
●数学の有用性が分かっていない。 等



1) 強みについて

周りの大人(家族や教師)が、子どもを認め、励ます行動が、生徒個々の自尊感情を育てる要因になっており、これが奏功していると考えられます。また、家庭での学習で、「まずは教科書の内容を確かめる」という基本的な行為は学習成果をあげる基本で、そのことがこの調査の正答率と相関があることが分かっています。授業でノートを取ることや最後まで粘り強く取り組むことができているという点でも、子どもたちの今後の成長により影響を与えるのではないかと思います。「好きこそものの上手なれ」といいますが、理科の学習は多くの生徒が好きと答えており、これが学習成果につながっていると思えます。

2) 弱みについて

弱みの中で一番気になるのは時間の使い方、学習時間や読書の時間が少ないことが気になります。また、中学生として地域を愛する心を持つことは地域の発展のためにも重要で、地域行事にはもっと積極的に参加させるような取り組みを行っていく必要があると思えます。

(3) 学力調査結果と質問紙項目との相関関係から

学力調査の結果と質問紙項目の相関関係を見てみると、「毎日、同時刻に就寝している」「家で予習・復習をきちんとやっている」「テストで諦めずに粘り強く取り組んだ」「教科の授業は好き」「週末には学習や読書をする」と答えている生徒ほどテストの正答率が高い傾向があります。規則正しい生活を送り、普段から家で宿題や予習、復習を積み重ねていくこと、何事にも粘り強く取り組む姿勢が、結果につながっているようです。

<今後の方向性>

この調査は4月に行われたもので、今の状況は少し違ってきているとは思いますが、学校では、この結果をふまえて今後の指導の糧にしていきたいと考えています。学習面では、基礎・基本を大切にしていきたいのはもちろんのこと、学習した内容をより深く掘り下げたり、活用したりする学びも実現したいと考えます。また、「教えられる」ことを中心とした学習場面だけでなく、「自ら考える」「互いの学びや知識・技能を共有する」といった学習を取り入れることで学びの定着や発展につなげ、子どもたちが未来を生きていくために身につける必要がある学習スキル、生活スキルを獲得してほしいと考えています。さらにまた、時間の使い方についても、受験という大きな局面を迎えることとなりますので、「有効な時間の使い方」について考えることを促したいと思えます。